

## 40年の伝統を誇る金城学院ハンドベルクワイア 盛大な記念コンサートを開催

# 美しい音色をさらに未来へ

金城学院にハンドベルクワイアが誕生してから40年。澄んだ余韻が印象的なその音色は、中学校から高校、大学へと広がり、2年前からは幼稚園でも奏でられています。今回は長年ハンドベルの指導に当たり、現在はケリーベルクワイアで指揮をとられる坂野延子先生、高校で指導される鎌井泰先生、中学校で指導される島岡久恵先生、そして大学で指導される吉田年一先生の4名に、この40年を振り返るとともに、ハンドベルに対する思いを伺いました。また先日行われた「金城学院ハンドベル40年記念コンサート」の様もお伝えいたします。



坂野延子先生

### 40年の歴史を振り返る 中学・高校ハンドベルクワイア

金城学院のハンドベルの歴史は、M・I・ケリー先生から始まりました。ケリー先生は1970年に、中学校にハンドベルクワイアを作られたのです。当時、ハンドベルという楽器は日本ではあまりなじみのない楽器でした。「なぜハンドベルクワイアを作られたのか、その理由は2つあります」と語るのは、ケリー先生から直接指導を受けた坂野先生。「まずひとつは、『神様を讃美する楽器』といわれるハンドベルを、キリスト教教育を学びの根幹にしている金城学院で是非とも利用したいというケリー先生の強い思いです」。またもうひとつの理由とし

ては、ハンドベルという楽器の特徴にあるとも。「ハンドベルの演奏は、誰か主役がいてみんなで脇を固めるというものではなく、誰も目立つ人はいないけれど、全員が主役となって音楽を奏でるスタイルです。自己主張が強く個人プレーの好きなアメリカ人より、個々の主張は控えめながらもチームプレーを得意とする日本人にこそ向いた楽器ではない

か、というケリー先生の読みがあったのではないのでしょうか」。ケリー先生の読みが間違っていなかったことは、その後の学院のハンドベルの歴史と発展が物語っています。

今や、この東海地域だけでなく、全国的にも金城学院のハンドベルクワイアは知れわたり、ハンドベルを演奏したくて金城学院に入学してくる生徒も毎年多く見られるほどです。「中学校で初めてハンドベルにふれることになった生徒たちの一番嬉しい瞬間は、入部が決まって、校内の購買部に初めて“白い手袋”を買いに行くときだそうです。その時の生徒たちは、どこか誇らしげで、また少し恥

ずかしげでもあります」と話す島岡先生。どの生徒たちもハンドベルの歴史と伝統を受け継ぎ、そして伝えていくという役割に誇りを感じるようです。先生方は「ケリー先生が金城学院にハンドベルを伝えたこと、そして坂野先生をはじめとする先生方がその後継として指導に当たってこられたこと、それらの流れはすべて神様が与えてくれたミッションだと感じています。私たちがハンドベルの指導をできるのは、神様が私たちを選んでくださったということです。そう思うと、自然に身が引き締まり、謙虚な気持ちになります」と話されます。

中学・高校ともに、ハンドベルを通しての奉仕活動として、病院や老人施設、刑務所などへ出かけての演奏を積極的に行っています。「行って初めて自分たちの演奏が人の心に感銘を与えたことを感じられます」と鎌井先生。また「ハンドベルの奉仕活動は単に技術の習得というだけでなく、



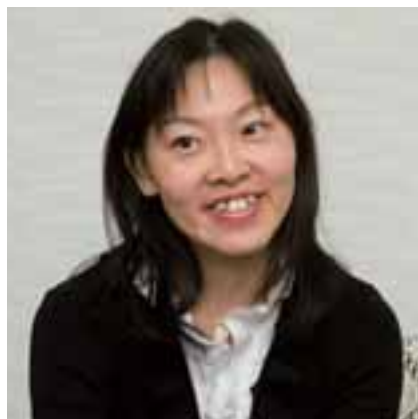
鎌井 泰先生

人格形成に大きく役立っています」とも。生徒たちにとって、ハンドベルから得る喜びや学びは大変多いよう



です。

ハンドベルは、単体でたくさん音を奏でる楽器ではありません。「だからこそ、自分の担当するパートをきちんと演奏しないと曲が完成しないのです」と先生方。「ハンドベルの演奏から、社会性や責任感を身につけてほしい。そんな大勢の先人たちの思いが今に受け継がれて、このたび40年記念コンサートを迎えることができました」との思いを語ります。こうした思いを受け継ぎ、これからもハンドベルは金城学院の象徴として奏でられていきます。



島岡久恵先生

## さらにレベルアップし、世界へ 大学ハンドベルクワイア

大学でもハンドベルクワイアは積極的な演奏活動を行っています。現在は高校から引き続きハンドベルを

続ける学生、あるいは新しくハンドベルを始めた学生ら22名が所属。指揮と指導は吉田年一先生です。

中学・高校で培ってきたこれまでの伝統を受け継ぎ、さらに技術的なレベルアップを図るために練習はほぼ毎日朝、夕に行われます。「ハンドベルはオクターブが増えるたびに難しくなります。また1人でも欠けたら練習にならない。学生たちはそれを十分自覚して練習に励んでいます」と吉田先生は話されます。「one for all, all for one、それがハンドベルにとって一番大事なことです」。こうした厳しい練習の成果はさまざまな舞台で発表。クリスマスコンサートや卒業コンサートをはじめ、全国フェスティバルや2年に1回行われる世界大会へも出演します。吉田先生は「特にアメリカで行われたディレクターズセミナー(指揮者のための講習会)に招待され、演奏できたことは学生たちにとって大変名誉なことだったと思います。こうしたすばらしい経験ができるのもハンドベルに携わっていればこそ。また経験だけではなく、『自分は1人じゃない、仲間がいる』という気持ちも実感できる。それはこれから歩いていく人生の大切な糧となることでしょう」と話されます。ハンドベルは相手のことを常に考え、思いやる心がないと演奏できない楽器です。「この心があれば、この先どんなことがあっても乗り越えていけると思います」と吉田先生は話されます。ハンドベルを通して学生たちは自分自身に誇りを持ち、「強く、優しい」女性へと成長し続けていきます。



吉田年一先生

## 歴史と伝統のハーモニー 40年記念コンサート

10月30日、大学のランドルフ記念講堂で行われたコンサートには幼稚園から大学までのハンドベルクワイアと、ケリーベルクワイアやみどり野ハンドベルクワイアなど卒業生らによるクワイアが出演。それぞれに日頃練習してきた成果を披露、会場は大きな拍手に包まれました。

中学校、高校、大学、そして幼稚園や卒業生らによるクワイアは、ふだんお互いの演奏を聴く機会がありません。お互いの演奏を聴き、後輩たちの頑張りを確かめたり、より上級の奏法を習得することを目標においたりすることでハンドベルの「これまで」を受け継ぎ、「これから」につないでいく…今回行われた40年記念コンサートはそのいい機会にもなりました。

最後は坂野先生の指揮により、クワイア全員で学院の校歌を演奏、その美しく響き渡る音色に会場中が感動の渦に。大変すばらしく、盛大なコンサートとなりました。



40年記念コンサートの様子

出演チーム紹介

- ・金城学院幼稚園ハンドベルクワイア
- ・金城学院中学校ハンドベルクワイア
- ・金城学院高等学校ハンドベルクワイア
- ・金城学院大学ハンドベルクワイア
- ・ひかりの子ハンドベルクワイア
- ・Kelly Bell Choir(ケリーベルクワイア)
- ・PRIME(プライム)
- ・みどり野ハンドベルクワイア
- ・しらゆりハンドベルクワイア(卒業生有志)